

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標の達成度	<p>対象住民の「生活の質の改善」という上位目標達成に向けて順調に進捗している。「生活の質の改善」は、教育機会に加え、安全な飲み水へのアクセス、病気への耐性、安定した収入源など、生活向上に関連するとみられる複数項目を総合的に捉えて定義している。</p> <p>地域学習センター（CLC）2館の開館から間もないが、一日の平均利用者数は100人を超え（第1館：113人、第2館：119人）、生活向上に欠かせない農業や保健などを多く含む400タイトル以上の本にアクセスしている。</p> <p>また、本からの知識だけでなく、本事業のCLCは「実体験」を通して学ぶことを重視し、そのような機会となる生活向上のための研修会を月例開催している。現在、当国で農業事業に定評のある団体、CEDACから講師を招き、野菜栽培研修を2館のCLC合同で実施し、それぞれの対象地域で、他の農家のモデルとなる農業普及員の育成段階にある（第1館：11人、第2館：12人）。今後、この農業普及員が地域の人的資源として生活向上研修会の講師を担当し、学んだ知識・経験を他の住民に伝えていく。</p>
(2) 事業内容	<p>本事業は全体で5カ年の計画であり、そのうちの最初の3年間は日本NGO連携無償資金協力申請事業とする。残りの2年は自己資金による継続活動・フォローアップを行う。</p> <p><u>1) 地域学習センター（CLC）設立及び運営指導</u></p> <p>一部の能力強化研修の遅延から2館の開館が当初の予定より若干遅れたものの、1年次に計画されていた活動はほぼ予定通り完了した。対象2地域で運営委員会を設立後能力強化し、住民参加型でCLC2館を建設、備品・図書・教材等を供与した。能力強化については、センターの運営を含む4種類の研修が、CLC#1では計9名（運営委員会メンバー6名、センター職員3名）、#2では計10名（運営委員会メンバー7名、センター職員3名）の住民代表を対象に実施された。このうち一部の研修には管轄郡・州から1～2名の教育省職員も参加した。現在開館している地域学習センター2館は、子どもから大人まで多くの住民に利用されている。開館後は、センターの日々の活動の定期モニタリングを通して、地域住民による自立運営に向けてのフォローアップ活動が中心となっている。</p> <p><u>2) 識字教室を通じた基礎スキル（読み書き・計算）の提供</u></p> <p>識字教室の開催を除き、1年次に計画されていた活動は、ほぼ予定通り完了した。専門家の指導の下、成人学習者向け教授法の研修会を、識字教員3名（CLC#1～3から各1名）、及び教育省職員6名（CLC#1～3管轄郡・州より）を対象に実施した。</p> <p>また、基礎教育に関する成人向け識字教材として、対象地域での普及を目的に、簡易型コンポストトイレに関する紙芝居を作成した。識字教室に関しては、教育省の新方針により2015年3月から開催となる予定である。</p>

3) 識字後プログラムの改善、構築・拡充

1 年次に計画されていた活動はほぼ予定通り完了した。1 年次では、住民と共にセンターの活動の一つとして位置づけられている生活向上のための研修内容の構築、実施支援を行った。例えば C L C # 1 では、炭を利用した濾過機と、熱効率のよいかまど作り、C L C # 2 では、古紙や植物の繊維を利用した紙漉きによる紙作りを実演した。対象地域の住民も地域の材料を使い、莫産を作って販売している為、地域の材料を日々の生活改善にも役立てるという点が住民にとって刺激になった。

また、国内の農業事業で成功を収めているローカル N G O、C E D A C との協力もなされた。C E D A C から講師を招き、住民向けに野菜栽培研修を実施し、C L C 2 館から合計 2 3 名の住民が参加した。今後、この研修会の参加者から、各対象地域で農業普及員 5 名が選定され、モデル農家として育成されていく。この農業普及員が地域の人的資源として生活向上研修会の講師を担当し、学んだ知識・経験を他の住民に伝えていく。

4) 対象集合村にて地域学習センター (C L C) に対する認知度の向上

若干の遅れが生じたが、最終的に 1 年次に計画されていた活動は概ね完了した。推進ポスターについては、計 4 作品開発し (C L C 2 種、読書 1 種、識字 1 種)、対象地域での推進に利用されている。

C L C 推進活動については、費用対効果並びに持続性の観点から、推進方法の見直しを行った。当初、当会職員による移動図書館車を利用した集合村巡回型を計画していたが、運営委員会・センター職員による寺院など村内の公共施設を利用した広報計画へと変更した。しかしながら、上記人材の広報能力強化に時間を要し、十分な広報活動の実施まで至らなかった。2 年次では、広報指導にいっそう力を入れていく。

5) 関係局・団体・組織間のネットワーク構築

教育省開催のノンフォーマル教育作業部会、並びに他団体が開催する C L C 定期会議に参加し、関連組織との関係構築を行った。1 年次途中から、当会が新たに C L C 有識者のみで構成・発足される、教育省主催の「C L C 作業部会」のメンバーに選出されたため、本事業からの経験や成果を随時共有した。次年度からは、当会が目指す C L C モデルケースの浸透を図り、「C L C 作業部会」など教育省中央レベルでの政策提言活動に重点をおく。

<p>(3) 達成された成果</p>	<p>1) <u>CLC委員会・職員・行政担当官を対象に、コミュニティによる運営自立化のための能力強化がされる</u></p>
	<p>【指標】(ア) 委員会が独自に運営費用を調達できるようになる (教育省負担分の「センター所長給与」と「識字教室運営費」(識字教師給与と生徒の文具費)を除く) 1年目：30%</p>
	<p>【現状】達成 CLC#1が10月、#2が11月に開館したばかりであり、まだ年間運営費用およそ\$1,000を調達できているか判断するには至らない。しかしながら、今年度は両館ともに、建設の土盛作業及びセンターの落成式で、地域住民のカンパ等から合計約\$3,000、年間運営費用の3倍を工面した。土盛に関しては、通常の建設に必要な2倍の費用がかかっているにもかかわらず、両館ともに住民からの資金調達を運営委員会、センター職員が調整したことは特筆すべき点である。2年次からは、運営委員会やセンター職員の資金調達及び広報における能力強化を通し、年間運営費用の調達を図る。</p>
	<p>【指標】(イ) 委員会が独自に地域からニーズを拾い活動に反映できるようになる 1年目：当会職員同伴で、月例会議を定期的実施している</p>
	<p>【現状】達成 各CLCで委員会達成後、当会職員同伴で、月例会議を定期的実施した。</p>
	<p>【指標】(ウ) センター業務・活動が計画の8割以上実施できるようになる 1年目：計画時から当会職員の指導付で8割以上実施している</p>
	<p>【現状】一部達成 2館が終盤に開館し、委員会主導で年間の活動計画を作成する作業を未実施であるため判断が難しいが、運営日程については両館とも午前と午後週5、6日開館し、計画の8割以上を達成している。</p>
	<p>2) <u>識字教室を通して、対象集合村の貧困世帯が基礎スキル(読み書き・計算)を習得する</u></p>
	<p>【指標】(ア) 教育省の識字能力試験に受講者の8割が合格できている。 1年目：6割</p>
	<p>【現状】活動未実施のため、測定不能 教育省の都合により、識字教室の開催は次年度3月からに延期となった。</p>
<p>3) <u>対象集合村の貧困世帯が生活改善ための知識を習得する</u></p>	
<p>【指標】(ア) 講義参加者の8割が、習得した知識・技術を生活改善に活用している(インタビュー形式で図る) 1年目：6割</p>	
<p>【現状】一部達成 2館が終盤に開館し、1年次事業期間中、生活改善研修を各館で1回しか開催していないが、合計23人中、9割以上が習得した知識・技術を生活改善に活用していると回答している。</p>	

4) 対象集合村にて地域学習センター（CLC）に対する認知度が向上する

【指標】(ア) 対象集合村の住民の5割がセンターの役割及び活動を認知している 1年目：3割

【現状】現時点で未測定のため不明
事業開始時の調査によると、認知度は13%だった。開館が予定より遅れた他、十分な推進活動ができるまでに至らなかったため、2年目以降に測定することとした。

5) 当会支援CLCと外部CLC、その他関係機関との間にネットワークが構築されている

【指標】(ア) 関係機関等との定例ネットワーク会議が開催される(管轄州CLC年次ネットワーク会議) 1年目：当会職員指導付きで開催する

【現状】実質上達成
CLC有識者のみで構成・発足される、教育省主催の「CLC作業部会」のメンバーに選出後、費用対効果並びに持続性の観点から、指標として設定していた「管轄州CLC年次ネットワーク会議」開催の計画を取りやめた。CLC作業部会では、CLC運営、教授法、カリキュラム、現行課題などの議案が取り上げられ、本事業からの経験や成果を随時共有し、「CLCガイドライン」の策定等具体的な改善策に貢献している。そのため、本コンポーネントの本来の目的（当国における本事業のCLCモデルケースの浸透）以上の成果が1年目からあったと言える。

【指標】(イ) 関係機関等との定例ネットワーク会議に、当会CLC委員会・職員が参加している（管轄郡教育局月例会議、ユネスコ開催年次会議、日本ユネスコ協会開催隔月・年次会議）
1年目：当会職員同伴で参加する

【現状】未達成
費用対効果並びに持続性の観点から、指標として設定していた各種会議の開催を取りやめた。しかし、上記作業部会への出席により、当会支援CLCが広く関係機関に認知され出したため、今後のネットワーク構築が期待される。

1年次を完了し、上記の成果に加えて次のような正のインパクトもみられた。

日常生活改善に適した活動日常生活改善に適した活動

本事業の識字後プログラムでは、農業に加え、濾過機・トイレ・かまど作製などの活動を通して、実際に人々が抱える日常生活の課題解決とうまくリンクさせていくことの重要性が、運営委員会、センター職員、教育局職員間で理解された。対象住民は、収入を得る職務に就く以前に、日々の生活上の課題を多々抱えている。女性の場合、家事への労力を減らさない限り、識字教室に通う時間を確保することが難しい。そのため、日々の生活を改善する活動と識字学習を関連づけていくことで、住民の参加度、学びへのモチベーションが向上した。

	<p><u>地域ネットワークの拠点</u></p> <p>開館から間もないが、2館のCLCともすでに、地域の発展に向けて政府機関や他団体を結びつける「地域ネットワークの拠点」として機能し始めている。次項に記した通り、CLCという「場」を生み出したことがきっかけとなり、住民を中心とした官民連携が促進され、CLCを媒体とした行政や他団体からの支援の申し出を受けている。これはCLCの活動の広がりや持続発展性において大きな躍進といえる。</p> <p><u>子どもからの知識波及の可能性</u></p> <p>CLCが地域の子どもの教育機会の向上においても貢献し、そのことが成人教育にもプラスのインパクトを与えている。2館のCLCでは子どもの利用者が多く、絵本だけでなく、農業や保健についての本がかなり読まれている。そして一部の子どもは書籍等から学んだことを親や兄弟に共有している。すでに知識と経験のある大人にとって、外部の第三者からの影響で生活スタイルを変えるということは難しいこともあるが、子どもたちが新しいことを率先して取り入れていくことで、成人教育の刺激になることが考えられる。2年次初旬からCLC#1では住民の要望・発案によるコミュニティ幼稚園も開始予定であり、「子どもから大人への教育の波及効果」のいっそうの強化が期待される。</p>
(4) 持続発展性	<p>本事業におけるCLCは、識字・識字後プログラムや図書館を通じての基礎・継続教育の場に留まらない。識字後プログラムを応用させた生活向上研修会は、識字の如何を問わず、濾過機やトイレの作り方など、住民のニーズから地域の問題解決となるコンテンツを開発している。</p> <p>事業終了後は、識字・識字後プログラムや図書館の継続運営に加え、生活向上研修会の実施も運営委員会やセンター職員が引き継ぐ。彼らが、村にはどのような問題があり、解決するにはどうすればいいのか、解決に向けてどのようなサービスの提供が考えられ、センターの年間運営費等を考慮し、どうしたらサービスの提供が行えるか、などを考えて実践できるようになることが求められる。2・3年次にはそのためのトレーニングが実施される。</p> <p>例えば、住民のニーズからCLC2館では、多目的ホールで集合村初となる市場の開催を始めた。村市場の開催は、政府の介入などの外部要因に依存せず、集合村内の地産地消により内部循環を通じて経済を活性化させる可能性を持つ。また、住民のほとんどが農家である2館では、「農業のより良い方法を学びたい」という住民の声から、農業専門団体CEDACとの協力による農業指導を実施している。</p> <p>その他、#1では副郡長から女性グループの発足支援、#2では農村開発を専門とする他団体から青年グループの発足・能力強化と太陽光パネルとPCの設置支援の申し出を受けており、現在、支援の調整を行っている。</p> <p>このように、CLCは事業終了後も地域住民と政府機関や他団体を結びつける「地域ネットワークの拠点」としての機能を有し、地域の発展に貢献していくことが期待される。</p>